

令和6年度 国内研修報告

小牧市立小牧原小学校 清家 武博

研修テーマ

児童の主体性を引き出す学習課題の工夫
～夢中になれる課題解決型の社会科授業の構築～

1 研修のねらい

協働的な学びの中で、主体的に課題を追究する児童の育成を目指すにあたり、広く知見を得るため。

2 研修報告

①全国小学校社会科研究協議会研究大会島根県大会

(1日目) 出雲市民会館

- ・開会行事、総会
- ・全大会 大会主題提案、指導講評
- ・記念講演
- ・閉会行事

(2日目) 出雲市立荘原小学校

- ・公開授業
- ・全体会
- ・学年別授業研究会
- ・学年別課題研究会

②田中学園立命館慶祥小学校 教育フェア 教育×A I

学校法人 田中学園 田中学園立命館慶祥小学校

- ・開会式
- ・授業公開①
- ・授業公開②
- ・意見交流
- ・閉会

3 研修での学びと今後に向けて

全国小学校社会科研究協議会研究大会島根県大会で授業参観させていただいた出雲市立荘原小学校では、研究主題「ふるさとに学び 今を問い続け 共に明日をつくる子どもの育成～し（主体性）・たい（対話）・もん（問題解決的）で追究する社会科の授業づくり～」のもと、①「実社会に目を向ける教材の工夫」②「主体的・対話的な授業づくりの工夫」③「深い学びの授業づくりの工夫」の三点を研究の視点として研究が進められていた。その中で、授業で地域教材（人・企業・モノなど）を活用し、学習する社会的事象を児童が自分事としてとらえ、考えられるようにしている取り組みや、授業の前半で新たな知識を習得させ、その知識を基にしてより深く追究し、学習のまとめに向かっていくための「焦点化する問い」の設定など、子どもたちが主体性に、社会的な見方・考え方を働かせながら学習に取り組めるような手立ての有意義さを学ぶことができた。また、そのような授業をデザインするために「知識と問いの構造図」を作成し、単元全体の学習の見通しを教員がしっかりと持てるような取り組みも大変参考になった。私が参観した5年生の「自動車を作る工業」の授業においては、地域にある自動車メーカーの関連企業である「ヒカワ工業」という部品工場を地域素材として取り上げ、製造されているエンジンの部品の実物を提示したり、動画でそこで働く方のインタビューを流したりした。また、焦点化する問いを「なぜ、組み立て工場は、わざわざ遠い荘原の工場で作った部品をつかっているのだろうか。」と定め、考えの共有を図っていた。そのような手立てがとられたことにより、児童は関心を高め、組み立て工場と関連工場の関係や、そこで働く人々の思いを自分事として捉え、主体的に学ぶことができていると感じた。

次に、田中学園立命館慶祥小学校の「教育×AI」をテーマにした「教育フェア」に参加させていただいた。田中学園立命館慶祥小学校は、Microsoft Showcase Schoolに認定され、教育のデジタル変革を推進している学校ということで、今回は生成AIを活用した授業を参観させていただいた。5年生の「日本の工業生産の今と未来」の単元の中で、「日本の製品を海外で製造するメリットとデメリットについて考えよう」という目当てで進められた授業を参観させていただいた。児童が、生成AIを活用して情報を得たり、自分の考えを確認したりする場面が多くあったが、大前提として生成AIの回答には誤りもあることが周知徹底されており、AIを自分たちと同じ学習者として立場で考えて活用している様子が見られた。児童は、AIを活用したり、友達と話したりして構築した自分の考えを全体で共有し合っており、教員はあくまで児童の考えをつなぐファシリテーターとしての立ち位置で終始授業が進められた。そのように海外生産のメリット、デメリットについて習得した知識を基にして、「あなたが自動車会社の社長なら、海外と国内、どちらに生産拠点をつくりますか」という課

題が出され、発展的でより深い学びにつながっていった。

児童は主体的に活動しており、情報を取捨選択する力や自分の考えを表現する力も育っているように感じた。

異なる二校の小学校で、同じ5年生の社会科の授業を参観させていただいた。授業の手法や取り組みの違いはあるものの、児童の主体性を大切にし、社会的事象を自分事として捉えさせることや、習得した知識を基にして、より深い学びに向かっていこうとすることは共通したものであった。特に、私の中で、社会的な見方・考え方を働かせながら思考させた結果により、社会的事象に関する知識を身につけさせたいという意識が強かったのであるが、「知識の習得→知識を活用した思考」という展開の良さを実際に感じる事ができたのが大きな収穫であった。